

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名 : 白色ワセリン
会社名 : 日興製薬株式会社
住所 : 岐阜県羽島市上中町一色467-1
担当部門 : 日興製薬株式会社 品質管理部
(電話番号)058-398-2576 (FAX番号)058-398-5863
緊急連絡先 : 日興製薬株式会社 営業部
(電話番号)058-398-2541 (FAX番号)058-398-5861

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性 : 可燃性固体 区分外
自然発火性固体 区分外
健康に対する有害性 : 皮膚腐食性/刺激性 区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分外
環境に対する有害性 : 水生環境慢性有害性 区分4

上記で記載がない危険有害性は、「対象外」又は「分類できない」

絵表示 : 非該当
注意喚起語 : 非該当
危険有害性情報 : 長期継続的影響により水生生物に有害のおそれ。

注意書き : 【安全対策】
環境への放出を避けること。
【応急措置】
非該当
【保管】
非該当
【廃棄】
内容物や容器を廃棄する場合は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。

その他の危険有害性情報 : 特記事項なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 単一成分
化学名又は一般名 : 白色ワセリン (White Petrolatum)
別名 : Petroleum Jelly
CAS番号 : 8009-03-8
成分 : 炭化水素類の混合物の脱色・精製品
官報公示整理番号
化審法 : 9-1692
安衛法 : 12-261

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石けんで洗うこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
- 急性症状及び遅発性症状の
最も重要な徴候症状 : 飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水を用いてはならない。
- 火災時の特有の危険有害性 : 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に一酸化炭素等の毒性ガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
関係者以外は、安全な場所に退去させる。
- 消火活動を行う者の特別な保護具
及び予防措置 : 消火作業では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
関係者以外の立入りを禁止する。
屋内の場合は立入る前から処理が終わるまで十分に換気を行う。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意
する。
- 封じ込め及び浄化方法
及び機材 : 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
関係先に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 取り扱いには換気のよい場所で行い、できるだけ局所排気または全体換気装
置を使用する。
- 接触回避 : 情報なし
- 保管
- 安全な保管条件 : 消防法の規定に従うこと。
直射日光を避け、暗所にて保管する。
- 安全な容器包装材料 : データなし
- 混触危険物質 : 強酸化剤

8. ばく露防止及び保護措置

- 許容濃度 : 日本産衛学会(2019年版); 3mg/m³ (鉱油ミストとして)
ACGIH(2013年版): TWA 5.0 mg/m³ (鉱油ミストとして)
- 設備対策 : 作業場にはできるだけ全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	: 保護手袋を着用すること。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、ゴーグル等)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 保護服(長袖作業衣等)を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 半固形状の軟膏様物質
色	: 白色～微黄色
臭い	: 無臭
融点/凝固点	: 38～60℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	: >230℃
可燃性	: データなし
爆発下限及び爆発上限/可燃限界	: データなし
引火点	: >93.4℃ (ASTM D93)
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に不溶、有機溶媒に可溶
n-オクタノール/水分配係数	: log P >6
蒸気圧	: <0.1 kPa (20℃)
密度及び/又は相対密度	: 0.75～0.87 g/cm ³ (100℃) (密度)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
燃焼性(固体、ガス)	: データなし
臭いのしきい値	: データなし
粘度	: 5～30 mm ² /s (100℃) (ASTM D445)

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
安定性	: 通常の取り扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件	: 直射日光、高熱、火炎・火花等の着火源を避ける。
混触危険物質	: 強酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物:	: 燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素や微量の炭素化合物、煤が生じる。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: データなし
経皮	: データなし
参考データ	: 経皮 ウサギ (petrolatum/paraffin wax50/50混合物) LD ₅₀ 3,600mg/kg (IUCLID, 2000)
吸入	: データなし
皮膚腐食性・刺激性	: 刺激性なし (Patty 5th, 2001) GHS分類: Pattyの記載を採用し「区分外」
参考データ	: 皮膚 ウサギ (petrolatum/paraffin wax50/50混合物) 24時間Draize法類似試験: 「slightly irritating」 (IUCLID, 2000)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	: 刺激性なし (Patty 5th, 2001) GHS分類: Pattyの記載を採用し「区分外」
参考データ	: ウサギ眼刺激性試験 (petrolatum/paraffin wax50/50混合物); 「slightly irritating」 (IUCLID, 2000)
呼吸器感受性 又は皮膚感受性	: 呼吸器感受性: データなし 皮膚感受性: 非アレルギー性である (Patty 5th, 2001) ヒトパッチテスト: 感受性なし (IUCLID, 2000) ヒト症例報告: 感受性を生じる可能性の示唆 (IUCLID, 2000)

生殖細胞変異原性 参考データ	: GHS分類: データ不足のため「分類できない」。 : データなし : ワックスとその関連物質について、遺伝毒性の可能性は非常に低い(US H PVIS, 2011)
発がん性	: EUのR警句; R45 (発がん性カテゴリ2)。ただし分類の根拠は不明 動物実験: 発がん性 認められず (IARC, 1984, ACGIH, 2006) IARC分類 (1984): Mineral oils, highly-refined・・・「グループ3」(分類できない) GHS分類: IARCの分類を採用し「分類できない」
生殖毒性	: ラット 2年間混餌投与試験: 高用量投与でも生殖器への影響は見られず (US HPVIS, 2011) GHS分類: データ不足のため「分類できない」
特定標的臓器毒性・全身毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性・全身毒性 (反復ばく露)	: ラット2年間混餌投与試験; 50,000 ppm投与群で、血液検査、臨床化学的 検査の指標への影響、組織病理学的変化は見られなかった petrolatumの反復投与毒性は非常に低く、NOAELは1,000 mg/kg/日以上 (US HPVIS, 2011) GHS分類: 経口以外の暴露経路での有害性が不明なため「分類できない」。
誤えん有害	: petrolatumの吸引により脂質性肺炎や脂質性肉芽腫を生じる可能性がある (IARC, 1984) GHS分類: 判定基準に明確に合致または否定する情報が得られていないの で「分類できない」

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
急性有害	: なお、Petrolatumは炭素数が20を超えるアルカン類で主に構成されているた め、水生無脊椎動物に対する急性毒性はないと思われる (IUCLID, 2000)。
慢性有害	: データなし GHS分類: 魚類、甲殻類、藻類ともにデータはないが、本製品の物性から生 物蓄積性ありと推測されるため、各生物種に対して「区分4」。 慢性水生毒性全体としても「区分4」。
残留性・分解性	: 難分解性 (US HPVIS (2011))
生体蓄積性	: 推定Log P; >6 (IUCLID, 2000)
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び舗装の 安全で、かつ、環境上望ましい 廃棄、又はリサイクルに関する 情報	: 廃棄物は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。 廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理 業者に委託処理すること。この場合、危険性、有害性を十分告知すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準 に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
---	--

14. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
品名(国連輸送名)	: 非該当
国連分類	: 非該当
容器等級	: 非該当
輸送又は輸送手段に関する 特別の安全対策	: 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなうこと。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上規制情報	: 非該当
海上規制情報	: 非該当
航空規制情報	: 非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当
化審法	: 非該当
毒劇法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
消防法	: 非危険物 (指定可燃物 可燃性固体類 (法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4))

16. その他の情報

【参考文献】

- 1) SONNEBORN社 SDS (2015/05/29)
- 2) 日本産業衛生学会 許容濃度の勧告値 (2019)
- 3) NITE CHRIP (Chemical Risk Information Platform)
- 4) US HPVIS (2011)
- 5) Patty (5th, 2001)
- 6) IUCLID (2000)
- 7) IARC (1984)
- 8) ACGIH (2013)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。また、新しい知見及び試験等により内容が変更されることがあります。

なお、注意事項は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には、新たに用法・用途に適した安全対策を実施のうえでご使用ください。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。